

# 「ジュニアマイスター」認定

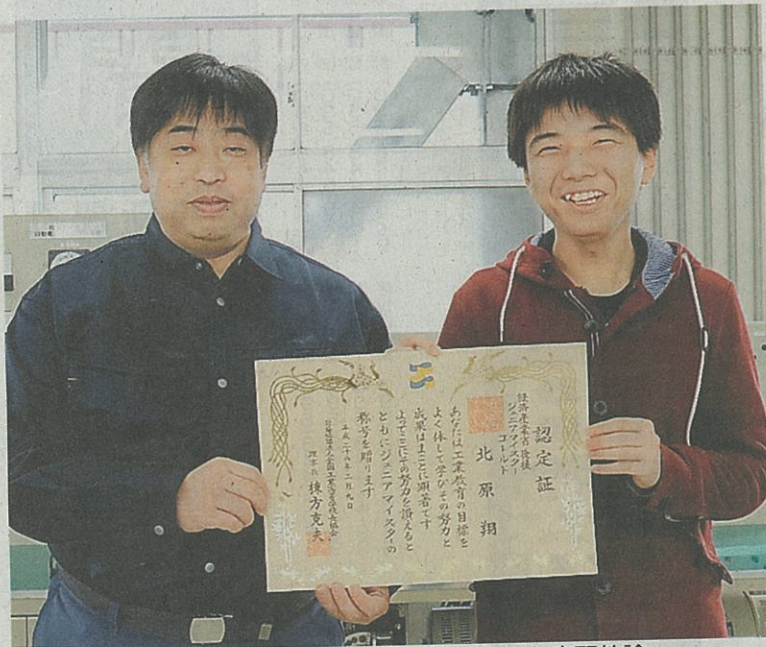


工業系高校在学中に取得した国家資格や検定試験合格などを点数化し基準を満たした生徒を表彰するジュニアマイスター顕彰制度で、計18の資格や検定に合格した県立長崎工業高(長崎市岩屋町)定時制4年、北原翔さん(21)が、県内の定時制高校の生徒では初めてとなる「ジュニアマイスター」ゴールドに認定された。

同制度は、全国工業高等学校長協会が2001年度創設。同協会は点数の合計が30点以上でジュニアマイスターシルバー、45点以上で同ゴールドの称号を与えている。

北原さんは小中学校時代に不登校を経験。15歳から飲食店で接客の仕事をしてきた。社会についていろいろ話してくれた雇い主、定時制に誘ってくれた職場の先輩など、キ

## 長崎工業高定時制4年 北原翔さん



認定証を手に笑顔を見せる北原さん(右)と内野教諭  
—県立長崎工業高

「パーソンがいて救われた。」「振り返ってみれば周りの大人に恵まれた」

朝から夕方まで働いた後、就職に有利な資格を取るため、早めに登校し勉学に励んだ。3年生までに九つの資格

を取得した。「とにかく素直で吸収力のある生徒」。そう評価する同校の内野泰延教諭(左)は昨年4月、定時制というだけで就職に不利な現状を打ち破ろうと、ゴールド認定取得を北原

## 18の資格や検定に合格

さんに提案。しかし同認定取得には、さらにフォークリフト運転特別教育、第三級アマチュア無線技士など九つの資格試験などに合格しなければならなかった。

勉強の時間は限られた。試験は一つも落とすことができない。「体力的にきつく、気持ちがついていかない時もあった」。北原さんが苦手な第一種電気工事士の実技を内野教諭は幾度も練習させ、励まし続けた。その結果、電気配線を倍の速さで仕上げるまでに腕を上げた。試験は次々に合格。最後の難関、同工事士に合格したのは1月。ゴールドの基準をクリアした。

県内の鉄道会社への今春の就職も決まった。「人より早く社会に出た分、いろんな経験ができた。定時制で学べて良かった」。道を照らしてくれた人たちへの感謝を胸に3月1日、卒業式を迎える。(松岡佑佳)